

BUNKYO 文協

長崎県文化団体協議会

2006.5.....

64

特集 ● 県展委嘱託展

- 郷土の芸術家：雲仙市・桶太鼓
西海市・ギターとピアノ
新上五島町・尺八と琴
美術館・チェロ
- ホールスタッフ：シーハットおおむら／藤崎 澄雄

Writing

みは 悲しみの 草花 咲き
かたは 雨の 草花 咲き
みは 悲しみの 草花 咲き
かたは 雨の 草花 咲き



Oil painting



Craft



Japanese painting



Sculpture



BUNKYO 文協



C O N T E N T S

特集 「誌上ミュージアム」……………2 長崎県美術展覧会委嘱展



- 彫刻……………3
- 日本画……………4
- 工芸……………5
- 洋画……………6
- 書……………7
- 事務局、日程、美術館・博物館企画……………8

室内楽コンサート

- ながさき室内楽祭
ながさき室内楽祭を終えて—— 力武 由美子……………9



郷土の芸術家公演事業

- 雲仙市・桶太鼓
心震わす音がある—— 川原 俊一郎……………10
- 西海市・ギターとピアノ
クラシック音楽をもっと身近なものに—— 益田 正洋……………11
- 新上五島町・尺八と琴
「箏・尺八への誘い」にジョイント出演して—— 坪井 久智……………12
- 美術館・チェロ
美術館でコンサート～感じる芸術～—— 建石 久美子……………13



HALL Staff (ホールスタッフ)

- シーハットおおむら／藤崎 澄雄……………14



- ながさき歴史発見・発信プロジェクト……………17

Essay (エッセイ)

- 第34回 長崎県新人発表演奏会を聴いて／大山 平一郎……………18

EVENT GUIDE (イベントガイド)

- 第34回 長崎県 新人発表演奏会……………19
- ながさき室内楽祭 編集後記……………20



「華のゆくえ」 佐藤 敬助

若い女性の生命感や、その心と形をテーマにして、最近このような座像シリーズ連作を発表されている、その一つです。

やや後ろに反らした背、上体を両腕で支え、両足を組み軽く宙に浮かしたポーズです。頭上より足先に至る動勢(ムーヴメント)を効果的に構成しゆったりした雰囲気に仕上げ、顔の表情には何か物思いにふけているような、また、空想に浸っているような感じで、肩にはおったシャツが一つのアクセントとして、肉体を引き立てています。しなやかで若い女性の心情や優しさ、内面よりにじみ出る命の輝きを生き生きと捉え、表現力に秀でた、魅力的な作品です。

(山崎 和國)



「新しい風」 近藤 浩一



「鎮魂」 松田 安生



「雨上がりの月」 馬場 正邦

「想い遙か」 小代 猛

両踵を合わせ、上体を僅かにねじり正面向きに直立した裸婦像です。動きのない静的な構図に、右腕を胸あたりに当てた手が、全体に変化を生み何か表情が現れた感じです。作品の印象として、健康的で安定感があり腰部を中心に、しっかりした造形で量感に充ち、生命感がみなぎっています。正面を見つめる視線に、はるか遠い彼方に、作者自身の姿があり「生きる喜びを、人静かにかみしめる姿を表現した。」と作者は述べ内面描写を堅実な技法で表現された作品です。 (山崎 和國)



誌上ミュージアム

長崎県美術展覧会委嘱展

平成18年2月に行われた長崎県在住の優れた作家の約220点の作品を展示した長崎県美術展覧会委嘱展。ここでは、その中からいくつかの作品をピックアップしてご覧いただきます。



藍木綿花織帯「万華鏡」 堀 直子

木綿糸を藍染めて何回もくり返し染めた、より深味のある濃紺の糸を経糸・緯糸をベースに、沖縄の花織り技法を駆使し、科学染料で染めた、黄・緑・茶・白色の糸を花織り部分の緯糸で浮き織りを配して、幾重にも変化するかのように織り込まれ奥行きが感じられる。又、白く点状に織り込まれた白さがより、フレッシュさがあって格調高く、幅27センチ、長さ5メートルの作品で細い糸に賭ける作者の意気込みが見る人に伝わってくる。
(重松 勝也)



「象嵌草紋大鉢」立井 治雨



「刷毛目清流文鉢」横石 臥牛



「心象」柴野 勝一



「春色の風」 松尾 道代

天草陶石を用い、一気にロクロでひき上げ、1300度ほどで焼き上げられた、青白釉の作品は釉薬の淡い透明感あふれる雪解け水を想わせるかのような新鮮で春告げる色である。

又、作品全体が若々しい斬新な造形で、口辺も春風を感じさせる爽やかで、リズムカルに表現されており創造性豊かな心ひかれる素晴らしい作品である。
(重松 勝也)

「山水」 井上 統舟

南画の山水は、本来、中国の靈山を心中に納め、自分の心情の変化に呼応させ、その中から自然の無限の広がり、また千変万化する情景として表出するものと言われる。即ち、自分自身が自然と融合し、一体となることを目指す極めて主観的な描法である。

作者は、自分の描いた遙かに連なる峰々と、茫漠とした深さと広がり雲煙の狭間に自らを置き、自分の存在と、無限なものへの憧れを見出そうと努力しているように見える。そこに作者の南画に対する真摯な姿を彷彿させる。(田中 哲人)



「八幡台散策」 湯川 静郷

穏やかな風景が、作者の人柄が見えるようです。

最近よく、廃屋をモチーフにした作品が、多かった氏が、画風を変えたこの作品には、広大な高原を散策した、深い想いがあるのでしょう。

ブナの木や熊笹の茂みを、丁寧に表現し、奥には茶屋らしい屋根が見えますが、この茶屋が、茅葺きだったと、思ったに違いありません。

一面の青草は、自然の豊かさを感じ、うねりの風の音さえ聞こえそうです。高原の向こうは、十和田湖でしょうか、余白の美が、そう思わせてくれます。

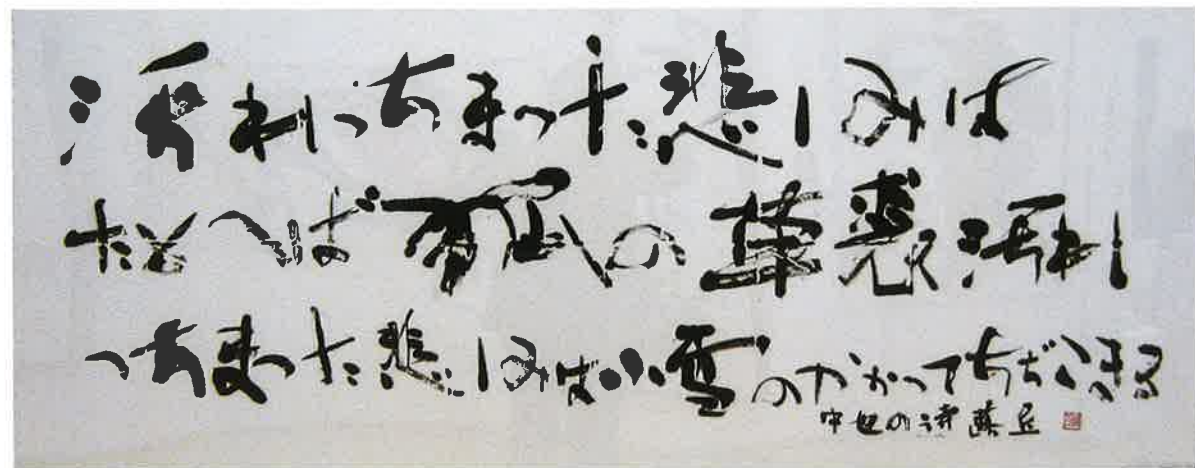
(松尾 アヤ子)



「薄化粧の久住山」 松尾 春彩

「犬」 城 輝行

「松景山水」 西田 藤山



「汚れっちまった悲しみに」 向笠 露丘

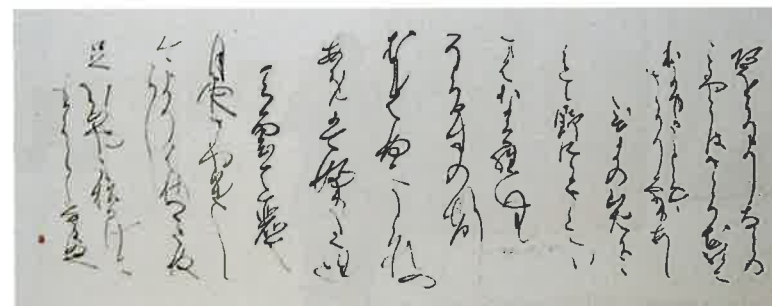
「書」というものの表現方法は多岐にわたり、一言では云えませんが、ごく簡単に云えば、文字の大小があること、線の太細があり、潤濁(にじみとかすれのこと)があることが、あげられる。勿論例外もあることは、云うまでもありません。

向笠氏のこの作品、近代詩文書といわれ、別名日展では調和体、そして最近では漢字かな交じり書とも云われている。御覧のとおり横書きの作品となっているが、近代詩文書表現形式の特徴の一つでもあり、左から右に読み、横への伸びやかさを重視して書かれている。

永年培われてきた超長鋒筆を駆使して、実にむづかしい線質で、縦横無尽のハイテクニックを展開し、リズムに乗った作風は、冒頭に述べた条件を満たし、直線を利かし、行間余白の美しさと、全体に行き届いた余白美の気配りと相俟って、実に見事に仕上げられていて、氏独特の世界を表出している。

これから益々県女流書壇のリーダーとして活躍されることを期待するものである。

(坂田 緑楓)



「新古今集」 松尾 研心

固有の文字を持たなかったわが祖先は、中国からもたらされた漢字を母体に、独自の工夫を加え、ついに「仮名」というわが国独自の文字を創案した。つまり、漢字の音を借りて日本語を表記する、いわゆる一字一音による表記法である。これが、仮名の表記法で、この表記法は世界にも稀な文字文化といえる。

この仮名文化は実にすばらしいものであり、先人の叡智というほかにない。松尾研心氏のこの作品は、万葉集の歌(あをによし奈良の都は咲く花の薫ふがごとく今盛りなり他三首)を中字的表現で制作されたものである。

豪華・絢爛たる奈良朝に思いをいたし、動的な時代を背景に、鑑賞の場が平面という中字の世界を、立面の鑑賞に堪えるべく、力感のある連綿と、強く張りこむ線は、余白を包み、緊張感をもって書き進み、密集する行の呼応は調和をはかり、前半やや抑え、後半で大きく展開する躍動美は、大胆にして細部まで神経の行き届いた構成は広い空間と時間とを書かれた墨の冴えは高まり、高い境地を目指している。

(寺嶋 邑浦)



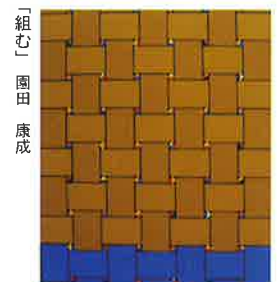
「Passione」 柏本 龍太

色彩は極めてシンプルである。グレーを基調として、土色系の三・四色でまとめるオーソドックスな手法である。それらを直線を用い色面分割と、構成による形体の中に人体のもつ美しさを、さりげない動作で描き出す。いつものスピード感は今回の作品にはないものの、静かな時間のとどまりを感じさせる。これほどに、時と空間との概念を意識させる絵画の面白さは、彼の哲学と視覚の中から生まれるのであろうか。(小川 巧)

「還想」 上田 貞子

不思議な世界への誘いである。樹の洞の断面を覗かされているような画面であるが、運動としては全て縦方向である。下方が大きい台形の画面の中で和紙であろうか誠に柔らかなテクスチャーでマチエールを様々に工夫して描かれている。その内部から不思議な音とそのリズムが聴こえてきそうである。白と黒による色彩の絡み合い紡ぎ出される空間なのであろう。上方から割くような鋭い赤の形も強烈なアクセントを与えている。それらの全てで醸し出されるハーモニーが美しい。

(小川 巧)

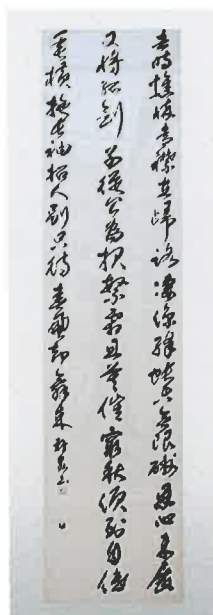


「組む」 園田 康成

「夢心地」 長田 ユミ

「キッチン」 立石 真希子

「エピソード(VI)」 荒木 恵子



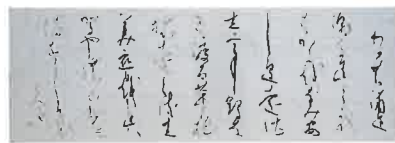
「司空図詩」 倉富 雄泉



「近代詩」 七嶋 剛舟



「浪」 立野 松雲



「冬のうた」 井倉 田鶴

ながさき室内楽祭

とき 2005年12月24日(土) ところ アルカスSASEBO



アンサンブル・ソノール・スクエアの演奏



公開レッスン(11月13日)

ファミリーコンサートin波佐見(12月25日)

アルカスSASEBOの中ホールは、外海町のド・ロ教会由来の石積み工法を再現した側壁とステンドグラスが美しい室内楽に最適な音響設備を備えたホールである。昨年の12月24日、クリスマススイブの中ホールに個性豊かな室内楽の調べが響いた。

平成14年の第1回から今年で4回目を迎えた「ながさき室内楽祭」は、室内楽に取り組んでいる方々に、プロの演奏家によるレッスンやコンサート出演の機会を設け、演奏技術や意識の向上を図るとともに、芸術文化活動に関する関心と理解を広げ、その目的に長崎県と開催地となるホールが共催して行っている芸術振興事業の一つ。昨年度までの経過をもとに、今年度から応募資格を九州までに広げると共にレッスンを2回に増やし、コンサートマスターやソリストとしてだけでなく、室内楽奏者としても国内外の音楽祭で活躍されている豊嶋泰嗣さんに音楽監督としてご参加いただき、長崎から県内外に室内楽の素晴らしさを発信していく室内楽祭を目指して開催した。

10月のオーディションの結果、長崎県から「Lyric(リリック)」、福岡県から「アンサンブル・ソノール・スクエア」Die Stadt trio(ディ・シュタット・トリオ)が弦楽器、管楽器、ピアノのプロの演奏家によるレッスンを経てコンサートに出演、それぞれが大きな成果を残した。

今回ゲスト出演した「クリスマススペシャルアンサンブル」は、豊嶋さんを中心に学生を含む若手奏者で編成されたもので、クリスマスにちなみ、県内では珍しいチェンバロを使った素晴らしい演奏を披露。翌25日には、今回初めての取り組みとして波佐見町のアウトリーチコンサートも実施。子供も参加し、楽器紹介やヴァイオリンの体験も交えた楽しいコンサートとなった。

今回の室内楽祭を終えて、第1回目から参加している出演者の成長ぶりやお客様の反応を見るにつけ、地道な努力ではあるが4年間継続したことによる確かな手ごたえを感じた。今後も、このような取り組みを継続し、室内楽の素晴らしさを発信できる音楽祭となるよう努力していきたい。

(平成18年度の日程は20頁です)

ながさき室内楽祭を終えて

アルカスSASEBO事業部 力武 由美子

長崎県美術展覧会事務局

〒850-0862 長崎市出島町2番1号 長崎県美術館内 TEL.095-825-6058



昭和31年、はじめて開催された長崎県美術展覧会(県展)も平成17年に第50回記念展を迎えました。これを期に、これまでの県展を県展公募展と県展委嘱展(旧県現代作家美術展)に再編し、それにいくつかの新規事業を加えて本県のますますの文化振興を願い取り組んでおります。

通常4人体制の事務局です。県展公募展実行委員・県展委嘱展運営委員と共に、県・県文化団体協議会・県美術館等のご支援をいただきながら仕事を進めております。



左より、溝川事務局長、松尾さん、島谷さん、並川さん

どうぞ今後とも、ご指導いただきますようよろしくお願いいたします。

事務局長 溝川 純浩
事務局次長 並川 一己(予定)
事務局員 松尾 和代
島谷 豊子

18年度の主な日程

18年 8月	公募展申込受付	19年 1月	委嘱展長崎展
9月	審査、公募展長崎展		委嘱展移動展
10月	公募展佐世保展、公募展諫早展	2月	委嘱展佐世保展
11月	公募展移動展		

没後20年

鴨居玲展

私の話を聞いてくれ



鴨居玲「私の話を聞いてくれ」1973 長崎県美術館蔵

戦後の日本画壇を支えた一人、輝かしい受賞歴を誇る一方で孤独や不安、死を感じさせるほどに自己の内面を深く抉り出した画家の代表作約110点によってその全貌に迫る展覧会です。

■観覧料
一般 900円(800円)
※()内は前売り及び団体割引料金です。
■開館時間 10:00~20:00
■休館日 第2・4月曜日

プレミアメンバーズ(個人会員)募集

長崎県美術館の個人会員として、館主催企画展・美術館コレクション展ともにフリーパスで鑑賞できるプランです。

お問い合わせ:同美術館 TEL.095(833)2110

長崎歴史文化博物館

日露修好150周年記念

「ロマノフ王朝と近代日本」展

版画と写真でたどる日露交流 ~ロシア国立図書館所蔵品より~



■会期 2006年4月27日(木)~6月4日(日)
■開館時間 8:30~19:00
■観覧料
一般 800円(640円)
高校生 600円(480円)
小・中学生 400円(320円)
※()内は団体15名以上の場合

2005年の日露修好150周年に際して、ピョートル大帝の時代から日露修好条約締結(1855年)を経て日露戦争にいたるまでの近代日本とロシアの交流の歴史を、サンクトペテルブルグの国立図書館が所蔵する貴重な写真、古文書、書簡、ドローイング、版画作品、書籍等約300点により紹介します。近代日露交流をテーマとした同図書館の所蔵品が初めて日本で公開される運びとなりました。

お問い合わせ:長崎歴史文化博物館 TEL.095(818)8366

クラシックギターの魅力

益田 正洋

若きピアニスト

田代 節子

日時／平成18年1月8日(日)

会場／西海市大島文化ホール



益田 正洋

1978年長崎市生まれ。
第21回クラシックギターコンクールにて史上最年少(12歳)優勝、東京国際ギターコンクールにて入賞。ジュリアード音楽院修士課程修了し首席で卒業。これまでに3枚のCDを発表。現在全国各地にてソロおよび室内楽、オーケストラとの共演など、活発な演奏活動を行っている。



益田正洋さんの演奏



共演した田代節子さん(ピアニスト)

是非お聴きください！
今後、公共ホール音楽活性化事業登録アーティストとして日本各地に点在する公共ホールで、コンサートと様々なアクティビティ(アウトリーチコンサートやワークショップなど)を行っていく予定です。この活動をはじめその他の演奏を通して、クラシック音楽の魅力をもっと多くの人に伝えていきたいと思っています。また、3月21日に3枚目のアルバム「カンタービレ」をリリースし、全国の有名レコード店で発売されています。ギターの繊細な音、音色の美しさ、多彩さが感じられるような選曲にこだわりました。これまでギターを聴かれたことのない方にも楽しんでいただけるアルバムになっています。

あれは幸いです。
そこで、今年1月8日に西海市で行われた「長崎県郷土の芸術家公演事業」では、皆さんに「音楽の楽しさ」、またクラシック音楽をもっと身近なものに感じていただけるように、アットホームな雰囲気を作り出そうと試みてみました。今回の演奏会を通じて多くの皆さんがクラシック音楽を親しみ深いものに感じてくださったのであれば幸いです。

私は生まれた頃からいつも傍らにギターがあり、おもちゃのようにそれを触っていました。これまで、ほぼ毎日ギターに触れてきたといっても過言ではありません。今では、言葉で相手に自分のメッセージを伝えるのと同様に、それが自分の嬉しさや悲しさなどの「自分の感情」や、作曲家が楽譜に込めた何かを表現するコミュニケーションツールのひとつとなっていました。

クラシック音楽は決して堅苦しいものでも退屈なものでもありません。スポーツをしたり、日記を書いたり、嬉しさや怒りを表現する為に大きな声をだしたり、体を動かしたり、演奏家はそれを「楽器」という道具を使って奏で、感情やメッセージをそれらと同じように表現しているのです。

クラシック音楽をもっと身近なものに
ギタリスト 益田 正洋

スーパー和太鼓プロジェクト

ZI-PANG

ジ・パ・ン・グ

LIVE2005

日時／平成17年12月18日(日)

会場／ハマユリックスホール

『ZI-PANG』プロフィール

桶太鼓の第一人者として知られる林田博幸が、2000年よりソロ和太鼓奏者を集結させ、総合プロデュースしている、他に類を見ない斬新なスーパー太鼓ユニット。

各メンバーはソリストとして和太鼓のみならず、ジャズ・ロック・ワールドミュージックなど音楽界はもとより、演劇・ダンス・舞踊・舞踏の世界でも独自のソロ活動を日々展開しており、その強烈な個性を重視したステージングは、圧倒的なテクニックとグループ感、エネルギッシュかつポップなステージを繰り広げます。

2003年、ライブビデオをリリース。2004年、日本アカデミー賞・授賞式に出演。2005年の『ZI-PANG』の中南米8都市公演では、各地でチケットの売上が相次ぎ、追加公演も行った。邦楽ジャーナル紙では、「林田博幸と『ZI-PANG』の挑戦と結果は、現在の桶太鼓の流行の行方を占う一つの指標になるのではなかろうか」と評される。



パワフルなリーダー、林田博幸さんの演奏



地元中学生を対象に熱の入ったワークショップ

「心を震わす音がある……ポスターチラシ等を選んでキャッチコピーです。自分で選んだものの本番が終わる迄、ほんの僅かな心配があったのも事実だったかもしれません。
そもそも、長崎県出身の林田博幸さんをリーダーにもつ「プロ桶太鼓集団 ZI-PANG」の存在を知ったのは、約4年前、知人の紹介でした。
いつかは、彼らと長崎のステージで、共に感動したいと思いつつ、今回の「雲仙市ハマユリックスホール」での仕事となったわけです。メンバー全員の紹介は、会場においてになった方々だけにとどめとして、彼らの公演は日本国内はおろか、昨年は中南米各地の公演で追加公演が出た程の実力の持ち主なんです。(個々人をとっても国内有数のミュージシャンです)
さて、本番当日です。昨夜の雪がウソのように晴れわたり、各地からお客さんが集まり、中には東京からの「追っかけ」もいらっしやった様でした。
プログラムでは、約90分のステージだったのですが、終わってみると2時間……まさに、光と音が成せるダイナミックな感動でした。観客の方々からも「良かった」「もう一回聞きたい」「最高！」など、絶賛のコメントをいただきポスターのキャッチコピー通りだったと、一人胸をなでおろしました。
本番の前に、ワークショップで熱く指導していただいた、リーダー林田さん。見事に、前座を飾っていたいただいた「吾妻太鼓保存会・吾魂」の皆様方……本番前まで控室でリハーサルを続けていた皆様の姿が、今でも目に浮かぶようです。
そして、最後になりましたがこのような場所を提供いただきました長崎県関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。
長崎の文化の発展の為に、この様な感動を持ち続けたいと思っています。

心震わす音がある

テレビ長崎 川原 俊一郎



アグレッシブな演奏で超満員の会場を魅了した子波さんのチェロ演奏

美術館でコンサート～感じる芸術～

長崎県美術館 総務広報グループ 建石 久美子

音楽と美術はいつの時代も密接な関係があり、多くの芸術家は互いに影響しあってきました。ピカソがエリック・サティやストラヴィンスキーなどと交流があり、お互いが影響を受けていたことは有名です。芸術とは、何が良い、何が悪いではないんですね。その人が、どう感じ、どう考えるか。そのあらゆる機会や手段を遮断してしまっただけは、もったいない。自分の中の窓を開いて、より多くの芸術に触れてみて、自分の中にある「何か」に気づく瞬間、とても衝撃的な自分自身に気づくと思います。

芸術と言う観点から、美術・音楽・文学・哲学…などと仕切りを入れるのではなく、感性のままに「感じる」ことを思い切り楽しむのもとても素晴らしいことです。美術館を感じて音楽を感じて、味を感じて、空気を感じて…長崎県美術館には、とても多くの「感じる」要素が詰まっています。意図すること・意図しないこと、自由に心の中に「感じる風」を送り込んでみてください。みなさん一人ひとりが長崎県美術館を自由に「感じて」楽しんで頂けたらと思います。

初めての「郷土の芸術家公演事業」。これは開催中の企画展「フランス絵画展」とチェロのコンサートを楽しむというお得なイベントで、今回演奏して頂いたのは、福岡を中心に活躍する中国出身のチェリスト 于波さんと、東京で活躍中のピアノスト田口真理子さん。兩人ともユニークかつアグレッシブな演奏をされる方で、前日のリハーサルも30分の予定があったという間に2時間！自由な雰囲気でのリハーサルはとても素晴らしいもので、スタッフもしばしば仕事を忘れうつと…担当でよかったと思った瞬間でした。

2ステージの定員各60席はあっという間に完売し、申込を締め切った後も当日まで問い合わせは続きました。当日は、立ち見のお客様も合わせると2ステージで500人を超えるお客様が集まりました。長崎市内は元より、佐賀や福岡からいらっしゃったお客様も！

このような「美術館でコンサート」は、長崎の方にも少しずつ定着してきたのではないのでしょうか。活水女子大学と長崎大学の皆さんによる「イブニングライブ」（毎月第2・4日曜日）をはじめ、様々な芸術性あふれる音楽イベントを長崎県美術館では行っています。

チェロコンサートと
魅惑の17-19世紀フランス絵画展
とき 2006年2月5日(日) ところ 長崎県美術館



箏・尺八への誘い

日時／平成18年2月12日(日)
会場／新上五島町石油備蓄記念会館

竹山 ミサオ
生田流箏曲 宮城社大師範
竹山直樹氏とともに、幼少より竹山良久子に師事。結婚後、門下生指導にあたり、新上五島町文化協会所属『白樺会』を永年にわたり指導。
『邦楽一の会』副会長。

竹山 直樹
都山流尺八楽会 竹琳軒大師範
生田流箏曲 宮城社大師範
6歳より、箏奏者であり作曲家の宮城道雄先生の直弟子でもある母より師事。昭和42年宮城会箏曲コンクールで一位入賞。来崎後、平成14年ブラハ室内オーケストラと共演。平成15年には、尺八奏者で人間国宝の青木鈴幕先生と共演。現在、長崎大学音楽科、活水音楽部非常勤講師も勤める。

「箏・尺八への誘い」に ジョイント出演して 新上五島町文化協会所属 濤声会(詩吟グループ)坪井 久智

近年、離島の新上五島町でも、施設が整備され、音楽や演劇等の芸術の生の演奏や舞台を鑑賞する機会に恵まれるようになりました。しかし、箏や尺八の生演奏、それも竹山直樹先生ご夫妻のような、著名な演奏家の来演は、私の知る限りでは、初めての事でないかと思っています。

「玄妙なる調べ」と言う表現がありますが、箏や尺八という和楽器の持つ特有の音色が奏でる「玄妙なる調べ」に場内は寂として、酔いしました。

五十年前、高校時代に、長崎三菱会館で、初めてヴァイオリンの生演奏、モンブランの「愛の喜び」(クライスラー作曲)を聴いたとき以来、深い感動に胸が熱くなりました。誌上を借りて、厚くお礼を申し上げます。

地元から、民謡の上五島芳栄会が出演し、白樺会が箏で、私たち濤声会も詩吟で、ジョイントライブする光栄に浴しました。詩吟は、言うまでもなく、日本古来の伝統芸能であり、形式内容共に本来、箏や尺八の伴奏とは調和するジャンルとは思いますが、今回は竹山先生のご指導と名演奏に助けられ、それなりの好評を得ることができたと感謝しています。

初めての体験で、学ぶところの多い舞台でした。ありがとうございました。

12

SEA HAT

ホールスタッフ

シーハットおおむら 藤崎澄雄



さくらホール綴帳
綴帳に描かれた図柄は、大村公園に四季を彩る「桜」「花菖蒲」「玖島城」を配し、中央に大村湾をあしらったものです。

シーハットおおむら
〒856-0836 大村市幸町25-33
TEL.(0957)20-7200

高校は、デザインにあこがれて長崎工業へ。71年ダイエー入社。以来、大阪、福岡、東京、熊本の約20数年余り、広告宣伝を担当してきた。

転職を迎えたのは、93年の神戸赴任の時。

ダイエー傘下の新神戸オリエンタルホテルは、ショッピングモールに劇場がついている都市型ホテル。その新神戸オリエンタル劇場(636席)の副支配人に派遣されたのである。「それまで、公共ホールとか劇場やコンサートとは無縁な生活だったので正直、戸惑いました。打合わせや打上げでテレビによく出る有名人と話をするのが苦手でした。」

職員は30人、元東宝や劇団四季の関係者、劇作家の卵などがいた。

劇場は「地方発の舞台芸術」というコンセプトで自主制作のミュージカルを年5〜6本制作していた。

しかし、折からバブル崩壊、ダイエー経営危機の中で子どもの進学のこともあり、そろそろ長崎に帰りたいと思っていた97年5月、新聞広告で長崎県のUターン説明会を知った。

「すぐ県大阪事務所に行ったんですが、思うような企業がなく、とりあえず名刺を置いて帰ったんです。すると、しばらく経って、長崎のハローワークから電話がありました。「(財)大村市振興公社/常勤嘱託」でどうかって。交渉の末どうにか暮らせそうになったので大村に家探しを兼ねて来て見たら、夏の暑い午後ということもあったのか人も少ないし、知り合いもいないしチョッと不安になりましたが、これも何かの縁と思い大村に行くことにしました。」

97年10月から(財)大村市振興公社に事業係として

目館長に就任する。

「館長は東京でコンサートの企画・制作にも携わっていた人で、高い芸術性があるのにすごくバランス感覚のある人です。ふるさとのために何か出来ればという思いで大村に帰ってきたと思いますよ。その年の秋に、県主催で五島の教会コンサートがあり、それが契機でOMURA室内合奏団ができ、ここまで進化し続けているのは館長の手腕に負うところが大きいですね。」

長崎県内で唯一のプロのクラシック楽団であるOMURA室内合奏団は現在50人が登録している。昨年10月には韓国との交流コンサートも実現した。竹島問題で一時、開催が危ぶまれたが文化交流を政治に左右されたくないという両国の関係者の熱意が開催を成功させた。現在、OMURA室内合奏団のマネージャーは、松田昇さんが引き受けている。

松田さんは東京で映画制作に係わっていた人である。ブロードウェイの村嶋、ダイエーの藤崎、映画の松田、とシーハットおおむらの屋台骨を支える3人に共通しているのは、文化事業に対する熱い想いである。それなしには、人口10万人満たない大村という都市で、これほどの企画運営は不可能であろう。もちろん、予算に対する悩みはある。

「大村市の文化事業予算は700万、これに県や地域創造、各種補助金事業で3000万ぐらいの予算

規模になっていきます。県へ要望したいのは、財政面での援助もさることながらソフト面での支援ですね。大村もそうですが、長崎は暮らしやすい所ということでこちらに住居を構えて東京で仕事をしている中央でも有名な人が結構います。そんな舞台や音楽の芸術関係者と一緒に創りあげる自主制作事業を県内で巡演できれば面白いですね。県内にどんな人がい



シーハットおおむらの屋台骨を支える三人(左より、松田昇さん、村嶋寿深子さん(館長)、藤崎澄雄さん)



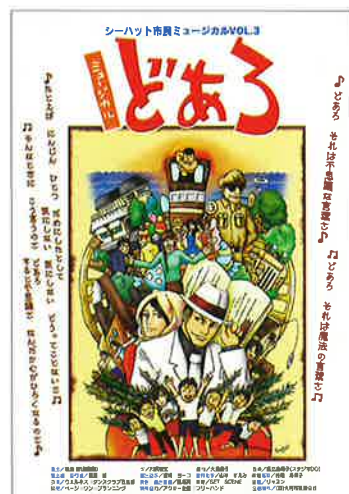
- 利用時間 朝9時～夜10時
- 駐車場 470台
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
- 交通アクセス
 - ◎国道34号線沿い大村市役所北側
 - ◎長崎空港から車で10分
 - ◎JR大村駅から車で5分
 - ◎長崎自動車道大村ICから車で10分
 - ◎県営バス寿町バス停 市役所前バス停より徒歩3分



スミタダ



オオムラザクラ夢想曲



どあろ

ながさき歴史発見・発信プロジェクト

「旅する長崎学」シリーズいよいよ発刊!

～『キリシタン文化』1号・2号を同時発売～

長崎県を舞台に繰り広げられた歴史の浪漫をたどる旅、そこには数多くの歴史文化遺産が物語る先人たちの歩みがあります。物言わない遺産たちが伝えてくれる歴史のストーリーを描き出したビジュアルガイド「旅する長崎学」がいよいよ登場! 本県の特色ある歴史テーマごとにシリーズとして発売されます。

第1弾は、『キリシタン文化』をテーマに5冊を発行。まずは、第1号「長崎でザビエルを探す」と第2号「長崎発ローマ行き、天正の旅」を同時発売!

「旅する長崎学」は、専門的で難しい歴史書でもなく、通り一遍の観光案内でもない、新しいタイプの歴史ガイドブック。あなたもこの一冊を片手に、長崎の「発見! 探訪! 感動! の旅」へと出かけてみませんか。



第1号 長崎で「ザビエル」を探す

- 巻頭特集 ザビエルが平戸にまいたキリスト教の種子
- 特集Ⅱ 宣教師たち 長崎で動く!
- 特集Ⅲ キリシタン大名 大村純忠のナゾ
- 特集Ⅳ 「小ローマ長崎」と消えた教会

第2号 長崎発ローマ行き、天正の旅

- 巻頭特集 ローマを見た四少年 大航海の軌跡
- 特集Ⅱ 天正遣欧使節四人の激動と波乱の生涯
- 特集Ⅲ セミナリヨで咲いた南蛮文化の華

ながさき歴史・文化《くちこみ情報》募集中

長崎県の歴史・文化の魅力をもっとたくさんの人たちに伝えるため、あなたの思い出やとっておきの情報などをお寄せください。

URLアドレス <http://www.pref.nagasaki.jp/gakugei/>

(インターネット・携帯サイト)



お問い合わせ: 長崎県文化・スポーツ振興部
文化振興課 事業推進班

住所/〒850-8570 長崎市江戸町2番13号
TEL/095-895-2762
FAX/095-829-2336



好評を博した市民ミュージカル 具足玉伝説(平成17年3月)

「ミュージカルは毎年やっています。2007年8月には天正少年使節団をやる予定。できれば、大村だけでなく県内のゆかりのところでやりたいです。脚本から公募して作り上げるのは力仕事です。でも、出演する子ども達のお母さんたちが小道具作りから宣伝まで手伝ってくれています。演出と振付は東京のプロにお願いしていますが、自分たちで創り上げるという感動は何物にも替えがたいものがありますね。それから、シーハットおおむらには、スポーツ施設が併設されていますが、たとえば小学生のミニバスケット応援団のためのチアリーダーのワークショップとか、ダンス系イベントで私達がスポーツにも関われる分野があるのではないかと思います。県でも、せっかく文化・スポーツ振興部が出来たのですから、V・ファールン長崎の開会式で新人発表演奏会出演者に

るのか、情報を集めて提供して欲しいですね。それとOMURA室内合奏団を県はもっと活用して欲しいとおもいます。」



具足玉伝説



さくらホール

◎コンサート・発表会・講演会・演劇 ◎収容人員 500席(車椅子4席含む) ◎舞台間口15メートル×高9メートル×奥行12メートル ◎付帯設備 親子室・赤外線補聴装置・コンサートピアノ2台・音響反射板・楽屋4室・楽屋事務室・リハーサル室・映写室・調光室・音調室・シャワー室

歌わせるとかコラボレーションを考えてはいかがでしょうか。」
サッカーには熱的なサポーターがいる。同じように、文化芸術の応援団のようなものがあればまちはもっと元気になるのではないかと。それを実現させつつあるシーハットおおむらに、ぜひ一度足を運んでいただきたい。
(取材:江口)

時間を掛けてじっくりと 音楽創りの「仕込み」を

第34回長崎県新人発表演奏会オーディションを聴いて

大山 平一郎

第34回新人発表演奏会オーディションは、とぎつカナリーホールで行われた。今回のオーディションを通じて感じた事は、「全体的に演奏技術の水準も高く、楽譜に記された音符をよく練習され、それをしっかり演奏された」と云う事だ。しかし本音は少し違う。「聞き手に感動を与える音楽創り」が極めて少なすぎる感が出てならない。ここに、感動と云う「超自然」な現象を、「創る」と云う人為的言葉を使って説明したが、身近な例を挙げてみると「料理の名医が創る絶妙の味の旨さ」と云う表現に似ているのではないかと思う。説明出来ない不思議な味覚を、舌、鼻、目を通じて味わう訳だが、実は料理人の素材に関する知識、熟練された技、緻密な計算、そして創られた料理が視覚的に食欲をそそる様、盛り付ける感覚、器の選定などがその味覚を創作しているのと同じような事だ。

演奏者にとって、料理人が云う器は演奏会場だ。とぎつカナリーホールの習性としては、聴衆が入っていない状態だと、響きすぎの感が強い。少々専門的な説明になるが、残響がありすぎると云う意味は、低音域で発生された倍音を多く含む音の波長は長く、瞬時に発生された次の音が前の音に重なって存続する為、人間の耳は聴き分けにくくなる。それに比べ、高音域の音である細かい波長は、低音に比べると短く消えていくので、比較的に聴き分け易い。この事を奏者の立場から云うと、弱音のつもりで演奏しても大きく聞こえ、強音は濁った、不透明な音になりやすい。この問題は伴奏を必要とする演奏ではソロと音量的

バランスが大きな課題となる。音の※アーティキュレーション、※イナウンセーション(発音、節回し)も、特に低音になるとその処理が難しくなる。同じ種類の課題として、弱音で、中、低音域で演奏される旋律、和音に陰影感を付ける和声上の性格音の演奏、又、ヴィオラやギターのように、他の楽器に比べて音源量が少なく、中、低音域にある楽器には更に不利な条件となる。しかし、演奏する場所として残響が在る会場と無い会場との選択に迫られると、大半の演奏者は前者を選ぶ。それは、自力で残響の効果を持つ音を創る程難しい事は無いと云う理由からだ。従って、残響のある会場での弾き方の技を心得ている表現力豊かな奏者は、水を得た魚の様になる。例えば、演奏家として究極の課題であり、音楽創りの原点でもある「音から音へ如何に移行するか」に取り組む場合も、残響が二つの音の接着剤になる様に工夫する。弱音を残響効果に相乗して演出できれば、ピアノシモからフォルテシモの幅が、無限に広がる。私の経験から言ってみれば、とぎつカナリーホールは、表情、表現創りに関しては、食欲になれるところだ。

話を料理の視覚効果論から、本題である素材の調味、調理術に移そう。音楽で言えば、作曲家が書いたものが素材で、それを如何に料理(演奏)するかが肝心なところだ。私の料理人友達から、「練習、練習して一体何をしているのですか」と聞かれるが、それは料理で云う「仕込み」と説明する。お客さんの要求に応じて、料理として食べてもらう為の下準備だ。私は今回のオー

ディションを聴いていて、多くの奏者の一番の問題は、この「仕込み」のやり方にあるのではないかと思う。音を奏するために指が機能しなければいけないが、その同じ指が、感動をも醸し出さなくてはならない。

インディアナ大学時代のある日、自分の楽器の調弦を終わって、いざ曲を弾き出そうと構えたら、先生から「待った」が入った。「平一郎、意図的に表現力の有る音が演出できないのなら、一音たりとも弾くな」と云われた上に、「貴方が弾く一音一音には、意図があるからこそ聴衆に聴いてもらえるのだから」と念を押された。つまり、それまでの何回かのレッスンで、私の弾く音楽が棒読み状態であるのに我慢が出来なかったと



◎第34回長崎県新人発表演奏会審査委員長
◎大阪シンフォニカー交響楽団首席指揮者

今年の新人発表演奏会は一味違います。

EVENT
GUIDE
イベントガイド

34回を迎える新人発表演奏会。3月のオーディションで優秀賞に輝いた若きアーティスト達が、華やかな演奏を繰り広げます。今年から、最優秀賞(グランプリ・賞金10万円)を設けました。そして、ゲストは昨年の33回新人発表演奏会に出場したフルート奏者の佐々静香さん。ドイツでの演奏活動の成果を皆様にお届けします。ぜひ多くの皆様、会場におこし下さい。

松尾 仁美(ピアノ・佐世保市)	前田 紘孝(トロンボーン・雲仙市)	吉田 智子(ピアノ・雲仙市)
永淵 邦佳(ソプラノ・長崎市)	永留 結花(フルート・大村市)	中島 さゆり(ピアノ・長崎市)
谷川 英勢(ギター・諫早市)	矢野 初実(ソプラノ・長崎市)	向井 静香(ピアノ・長崎市)
島田 真由美(ソプラノ・島原市)		

【出演順】

第34回 長崎県 新人発表 演奏会

- と き：平成18年5月20日(土)
- ところ：長崎ブリックホール 大ホール
開場：17時30分 開演：18時
- 入場料：一般/1,000円
高校生以下無料(但し学生入場券が必要)
- 主催・お問い合わせ先：

長崎県文化団体協議会(TEL.095-822-6049)
NBC長崎放送 (事業部TEL.095-820-1022)

Guest ゲスト

フルート/佐々 静香

長崎市生まれ。くらしき作陽大学音楽学部卒、ベルリン「ハンス・アイスラー」音楽大学に在学中。第11回ベルリン「ハンス・アイスラー」現代音楽コンクール2位入賞。現在、ベルリン交響楽団やベルリン室内管弦楽団を初めとするオーケストラでエキストラの活躍をする中、2005年8月よりゲッティンゲン交響楽団の契約団員を勤めている。藤原みか、岩崎範夫、故カール＝ハインツ・ツェラー、ジャック・ゾーン、ウルフ＝ディーター・シャーフ、各氏に師事。第33回長崎県新人演奏会に出演。



【演奏曲目】カール・ライネッケ/ソナタ「ウンディーヌ」作品167

云う、「たまりかねた警告」だった訳だ。ロンドン時代での教訓で、「何」を弾いているかは判っているつもりだったのだが、知性と機能する指を持っているだけでは、感動を与え得る演奏は生まれてこない。「表現力のある音を演出」するには、調理で云う「味に味を重ねる」「工夫が無いとくも深みも出て来ない」と同じように、「一つの情に他の情が重なった音」でないと感動を誘うような魅力的表現力は熟成されてこない。例えば、「力が尽きた」とは言っても、諦めが付かない最後の足掻き」と云う心情を音で演出するには、弱音でありながら、しかし緊張感を含む音が必要だ。「心痛む失恋の虚しさ」では、同じような弱音でも、虚無感の音を創らなければいけない。

私は幸運にも、西欧音楽演奏史に名前を残す名手を師に、また現在の世界最高峰で活躍する演奏家を同僚に持っている。若い頃、この人たちと練習するたびに印象付けられたのは、名手になればなるほど、一案句ごとに対する繰り返しの練習を、気が遠くなるほど時間を掛けると云う事だ。まず一つの音から次の音へ、そしてモチーフ(動機)として、それからフレーズ(旋律)として音の連立を立ち上げていく。それも顕微鏡で確認していくのかのごとく、超スローモーションでやり始める。つまり、一瞬のうちに演奏されていくその動機、旋律の中に、多くの要素を凝縮し折り混ぜる為に、経過していく時間を拡大して、意図を含む音をじっくりと植え込んでいく訳だ。丁度織物を創る過程で云う「自然に見える曲線」を織るには、針と一寸四方に千針程打たなくては、なかなか自然が描けないのと同じ事だ。

体力と時間がある若い時にこそ、時間を掛けてじっくりと音楽創りの「仕込み」を研究し、習得するべきだ。最近「ファーストフード」に対して、究極の食は「スローフード」だと言われるが、こくのある音楽演奏を仕込むには時間をかけるしかない。

※ articulation ※ enunciation

第34回

長崎県
新人発表
演奏会

～声楽・ピアノ・管楽器・ギター～



平成18年5月20日(土)

午後5時30分開場／午後6時開演

会場:長崎ブリックホール大ホール

入場料／一般1,000円 高校生以下 無料(但し、学生入場券が必要です。)

※入場券は、浜屋プレイガイド・絃洋会楽器店・ときつカナリーホール・NBC長崎放送事業局・県文化団体協議会などにあります。

主催:長崎県文化団体協議会、NBC長崎放送

共催/長崎県、長崎市、時津町

後援/長崎新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、

NHK長崎放送局、FM長崎、ザ・ながさき、ながさきプレス

問い合わせ先/長崎県文化団体協議会[TEL.095-822-6049]

NBC長崎放送事業局[TEL.095-820-1022]

長崎文化ジャンクション ホームページアドレス <http://www.pref.nagasaki.jp/bunka/>

佳作に「観用家族」(吉盛眞奈美氏・宮崎県)

～第36回九州芸術祭文学賞～

第36回九州芸術祭文学賞は九州文化協会と九州・沖縄各県、福岡、北九州両市の共催、文化庁後援で平成17年5月末から募集し、8月末締め切りました。応募総数は305編。前年の281編より24編の増です。男女別では男性182人、女性123人でした。長崎県からは31編の応募がありました。

9月～10月にかけてこれら10地区で地区審査をし、地区優秀作、次席を決定、10編を11月に最終選考委員へ送りました。

長崎地区の選考会は10月4日、川道岩見、小西宗十、定来文彬の三選考委員により行われ、地区優秀作:「火曜日」(松田るんお)、次席「真夏のループ」(小北美沙希)、「金柑夫婦」(石橋朗子)を選定。地区優秀作を最終選考に送りました。

最終選考会は、作家の五木寛之、立松和平、村田喜代子、文系評論の秋山駿、「文藝界」編集長・大川繁樹の5氏が出席して、今年1月26日(木)午後6時から東京・品川のホテルパシフィック東京で開きました。選考の経過につきましては大川繁樹選考委員から報告されましたが、今回は最優秀作は該当がなく、佳作1編が選ばれました。

佳作は宮崎県の吉盛眞奈美氏「観用家族」で、佳作

の評は「比較的いや味なく、スナリ読めた」など全選考委員の意見は一致しました。なお、全般的な作品の評価としては「芥川賞作家ら有力作家を多数輩出してきたユニークな文学賞だけに、一定の水準は維持していかなければならない。最近の水準が続くと、未来は明るくない」という厳しいものでした。

この文学賞の最優秀賞者からは4人の芥川賞作家が生まれています。第7回の優秀賞・村田喜代子さんは昭和62年に、翌第8回の又吉栄喜さんは平成7年度、第27回の目取真俊さんは同9年度、第30回の大道珠貴さんは同14年度にそれぞれ芥川賞を受賞しています。目取真俊さんは、当文学賞「水滴」がそのまま芥川賞の受賞作品となりました。また、第18回の岩森道子さん、第19回の崎山多美さんも芥川賞の候補となっており、このほか第6回の帯木蓬生さんは平成5年に吉川英治文学新人賞、同7年山本周五郎賞、同9年柴田練三郎賞を受賞するなど、多くの作家が活躍中です。

★平成18年度作品(小説)募集要綱

5月中旬に発表予定。応募締切は8月31日(必着)

詳しくは、県文化振興課(095-895-2762・江口)まで

Nagasaki Chamber Music Festival

平成18年
「第5回ながさき室内楽祭」日程

18年 7月10日 ● 出演者募集締切

7月下旬 ● 第1次オーディション(ビデオ審査)

8月27日 ● 第2次オーディション

19年 3月 4日 ● コンサート[アルカスSASEBO]

■問い合わせ先

アルカスSASEBO TEL.(0956) 42-1111

◎編集後記/2月福岡市で開かれた企業メセナ協議会のシンポジウムに参加しました。日本に企業メセナ企業が出てきて15年、関係者は同音異義語に「市民と企業と行政の連携」を強調していました。日本の企業メセナといえば、日本最高の「音色」を持つサントリーが有名ですが、九州でも九州電力をはじめ、焼酎「いいちこ」(大分)、明太子「ふくや」(福岡)、「小城羊羹」(佐賀)と地元企業の健闘が目立ちます。長崎でも、このところ、文化募金や県展への協賛企業が増えているのは心強い限りです。これからはさらに、サッカーや駅伝というスポーツ系同様、企業の皆さんの文化系へのご支援を期待しています。(江口)

BUNKYO文協 第64号(2006)平成18年 5月発行

発行/長崎県文化団体協議会

住所/〒850-8570 長崎市江戸町2番13号

長崎県文化・スポーツ振興部 文化振興課内

電話/TEL.(095)822-6049 FAX.(095)829-2336

編集/長崎県文化団体協議会事務局

印刷/日本紙工印刷(株)